

令和4年(2022)年3月29日

令和4（2022）年度事業計画／理事会

期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日

社会福祉法人 風の森

1、事業の目的

社会福祉事業保育所の運営

児童福祉法に基づいて、乳児及び幼児の保育事業を行うこと。

保育内容は、法人理念と保育所保育指針の基、全ての子供に、質の高い保育を提供する。

2、理念

“健全な成長と限りない能力の開花”

児童福祉法に基づき、子どもの主体性・人格を尊重し、子育て家庭との信頼関係を基に、子ども一人ひとりの健康、心の成長と限りない能力の開花を目指す。

3 法人の中期・短期運営方針と令和4年度の取り組み要約

出生率の低下に加え、コロナ少子化が顕著になる中、杉並区では、もはや待機児童問題は死語となり、令和4年度には小規模を含め保育所数は200園をゆうに超え、定員割れとなる保育園も目につき始めている。

今後は、より一層の養護と教育の内容の充実を図り、「選ばれる保育園」への施策が本格的に求められる状況となっている。

これら状況を受け、引き続き中期運営方針である「サステイナブルで、且つ、社会貢献度の高い法人」に向け、E.S.H.(以下に示す)の強化、充実に努めて行く。

今年度は、これまでに培った経験、実績を踏まえ、法人理念の基、6園の拠点保育園の「選ばれる保育園」に向け、環境・施設(E)の見直しと充実、社会貢献(S)、保育の質・人の質向上(H)へ注力し、投資を行い、更なるこれらの充実を図る運営を目指す。

① 環境・施設の充実(E)：

- ・安全・安心へ注力し、情操豊かな心身を育む保育環境整備を目指し、今年度は、施設の緑化、及び遊具の充実に努める。
- ・遊具の導入については、昨年度行ったPico和田堀公園大型遊具、Pico新高円寺室内遊具、及びPico久我山の遊具導入に引き続き、今期は、Pico玉川上水公園でのネット遊具導入、上高井戸保育園の園庭側ポリカひさしの全面取り付けを予定する。
- ・新型コロナ対策については、今まで以上に、感染防止への安全対策に取り組む。

② 社会貢献活動(S) :

現在半数の当保育園にて、地域の子育て家族への貢献を目指し、子育て講座、子育て広場としてのPicoベイビー カフェを開設している。新型コロナの影響が収まり次第、これらカフェの運営を開始する。

③人の質の向上・保育の質の向上(H) :

- ・保育の質の向上は、保育を行う人、即ち保育士の質の向上そのものと言える。
その観点から、令和3年度に導入した自己評価システムともリンクさせ、365日いつでもどこでも学びが可能となるオンライン研修システムを導入した。今年度は、その実効を上げる年度とする。この他年始行事として恒例となった各園の研究発表会の開催強化を図り、将来には、全国レベルでの保育に関する研究発表会にて発表できるレベルを目指す。
- ・昨年末、保育園、幼稚園で働く職員を中心としての給与アップの方針が政府から発出された。この方針を受け、当法人でも、今年度、保育士を中心に給与の大幅アップに努め処遇改善を行う。
- ・この他、令和3年度に、当法人で働く女性環境の充実に対し、東京都から受賞した東京都女性活躍推進大賞を、風の森内に留まらず全国の働く女性の環境向上へ広げて行く。

4、各園の今年度の重点活動方針

今年度の各園は、以下の重点活動方針を掲げ、保育運営に取り組むこととする。

OP 久我山 :園内コミュニケーションの強化

OP 久我山駅前 :
①子ども理解の向上(子どものための理解者になる)
②語り合う風土の定着化

OP 上高井戸保育園 :
①自己肯定感を高める保育への学び
②職員・クラス間のコミュニケーション力の向上

OP 和田堀公園 :
①SDGsへの取り組み、
②保育力の向上

OP 新高円寺 :
①職場のチーム力向上
②子ども“やりたい”が引き出される環境の工夫

OP 玉川上水公園 :
①玉川上水公園の保育の基盤をしっかりと構築する
②職員が自ら学びを得ようとする意識を持てるようにする

5、各保育所の定員／園児数（令和4年4月1日予定）

事業拠点	定員／歳児						合計	令和4年4月園児予定						合計	開園
	0	1	2	3	4	5		0	1	2	3	4	5		
P 久我山 久我山 3-37-24	3	10	18	—	—	—	31	3	10	18	—	—	—	31	H26
P 久我山駅前 久我山 4-2-15	9	15	18	—	—	—	42	9	17	18	—	—	—	44	H28
上高井戸 久我山 1-4-15	—	10	16	18	18	18	80	—	8	15	18	18	18	77	H29
P 和田堀公園 大宮 1-20-22	12	18	21	23	23	23	120	12	18	19	22	22	23	116	H30
P 新高円寺 梅里 2-24-6	6	12	12	15	15	15	75	6	12	12	13	14	15	72	H31
P 玉川上水公園 久我山 1-6-12	3	8	8	9	9	9	46	3	8	8	9	9	9	46	R2 2020
						計	394						計	386	

注) 上記“—”は、本年度募集を行っていない。

6、組織、及び主な人事：主な人事は、以下の通り。

園名	園長	主任・副主任	備考
Picoナーサリ久我山	高橋永里香	井上葵	園長留任
Picoナーサリ久我山駅前	近藤麻衣子	塚本梨香	園長、主任とも留任
上高井戸保育園	近藤加代子	小山貴子	園長、は留任。主任空席。 副主任2名体制
Picoナーサリ和田堀公園	伊藤優里	森本恵子	園長、主任とも留任
Picoナーサリ新高円寺	佐々木 瞳	芳永典子	園長、主任とも留任
Picoナーサリ玉川上水公園	斎藤 祥子	山根 好美	園長、主任とも留任

7、各拠点園の職員体制他（職員合計189名（本部職員含む））

	Pico 久我山	Pico 久我山駅前	上高井戸 (指定管理)	Pico 和田堀公園	Pico 新高円寺	Pico 玉川上水公園
施設長／園長	1人	1人	1人	1人	1人	1人
主任	1人	1人	—	1人	1人	1人
副主任・乳児主任・幼児主任	0人	1人	2人	1人	1人	1人
保育士	13人	17人	19人	28人	17人	15人
栄養士・調理師	3人	5人	5人	5人	5人	3人
嘱託医	1人	1人	1人	1人	1人	1人
看護師	1人	1人	1人	1人	1人	1人
保育補助	1人	4人	3人	5人	2人	1人
業務・事務	1人	1人	1人	1人	0人	2人
合計	22人	32人	33人	44人	29人	26人

【各職の役割】

- ・施設長／園長は、担当保育士、保育カリキュラムを定め、園運営の総括的指揮をとる。
- ・主任は、施設長を補佐し、安全且つ良好な園の運営に努める。
- 職員配置の基本的な考え方として、経験者と新卒者を組ませることで、新人は経験者から蓄積された知識と経験を学び、経験者は新卒者から新たな保育理論や考え方を学び、相互に刺激を受けて成長できる場を作る。

8、保育時間(各園共通)

通常保育時間 午前7時30分から午後6時30分

延長保育時間 午後6時30分から午後7時30分

9、保育における主な行事

子どもの健やかな成長を促すことを主眼とし、季節ごとに以下の行事を行う。

- ・春：入園式、慣れ保育、春の会、
- ・夏：プール、水に馴染む活動
- ・秋：運動会、生活発表会、ハロウイン、お芋ほり、収穫の喜び
- ・冬：クリスマス会、節分、お餅つき

10、健康管理、安全管理、防火管理

- ・健康管理：園医定期健診・身体測定(1回／月)、内科検診（2回／年）、耳鼻・眼科検診（1回／年）
- ・防災訓練：1回／月

- ・安全管理：1回／月

11、保護者に向けて

- ① 保護者会：年2回予定し、各グループ毎に懇談を行なう。
- ② お知らせ：
 - ・園/クラスだより、保健だより毎月1日に発行、
 - ・日々活動：連絡帳、kidsly（子育て共有アプリによる保育写真のアップ）
 - ・給食だより、献立表（離乳食・幼児・アレルギー）毎月1回発行

12、給食について

昨年度に引き続き、食育を重点施策として、各園“保育園の給食は、全ての活動の源となる大切なものの”と認識し、安全でおいしい給食を目指す。以下にこの概要を示す。

当園の給食の方針	給食は、全ての活動の源となる大切なものと認識し、安全でおいしい給食を目指す。
昼食・おやつ	保護者の方へは、毎月月末に翌月の献立表を配布する。
アレルギー等への対応	アレルギーが疑われる場合は、個別にご相談の上、提出された医師の診断書（又は指示書）に基づき、当園で除去可能な物は除去食・代替食で対応する。（近年、卵、乳製品のアレルギー児が大幅に増加している。）
衛生管理の取り組み	1) 集団給食施設届出を杉並区高井戸保健所へ提出。 2) 調理員及び乳児担当職員は、毎月検便を行う。
情報の共有化	各拠点の栄養士を中心として、毎月栄養士会議を行い、献立表、食育行事、衛生管理、食材仕入れ、子どもの完食状況、アレルギー等の情報交換を行う。

13、職員の専門性向上への研鑽に向けての職員研修の状況

- ・自己評価とも連携し、365日いつでもどこでもリモートにて、250以上講座から職員全員が自ら選択して受講可能とするオンライン研修体制を整備。各員最低5講座／年は受講する計画を立て、実行する。
- ・保育研究発表を1回／年、各園実施。全員職員を前に研究成果の発表を行う。
- ・その他、キャリアアップ研修、区主催の研修への参加、各自の課題に沿って、外部研修の受講を行う。

14、今後の課題

- ① 引き続き新型コロナ感染対策の強化が求められる。

イ) 3密対策の徹底の他、多くの行事で、縮小やリモート開催が引き続き求められる。また、保育においては、保育士が常にマスクで顔を覆いながらの保育上の課題がある。更に、子どもの成長に欠かせない学ぶ機会、保護者との密接な関係を損なわずどう保育の質の強化に努めるかも課題となっている。

このコロナ対策と手厚い保育の充実との間に生じる微妙なバランスの上に立ち行う

保育運営の難しさが今年度も課題となる。

ロ) SNS、ICT の活用推進による運営課題。昨年より保護者への連絡、新入園児保護者への園の説明会は、全て SNS や YouTube 上で実施してきた。また職員採用時の面接も Zoom で採用を決めるケースが多い。採用決定に際し、従来では実習を見て行われることが多かったが、これが省かれるケースが多くなっている。この他研修も、法人内打ち合わせもリモートとなっている。今後どこまでリモートとするか、どこまでは直接面接や会合とするか、見極めの必要がある。

- ② 借上げ社宅補助制度の打ち切り時期の見極めと、その対策。取り合えず令和3年度は、単年度ベースで、この制度が1年延長されたが、この正式決定が年明けであり、新卒採用要項への記載問題、現制度利用の保育士に制度中止なら国へ帰る者、安い家賃先への引っ越し問題の発生など影響が大きい。今年度もこの問題の対応に追われることとなる。
- ③ 行政の待機児童問題へ取り組み施策の効果、新型コロナ少子化などから、既に都内 23 区の半数以上で保育園での定員割れ現象が起きている。この状況から、保育園業界での課題は、待機児童問題から、選ばれる園となるには、へ移っていると認識される。
今後は、本来の施設環境の整備、保育の質の向上、安全安心の保育、の保育基本の姿の強化他、地域の子育て家族への支援が従来に増し求められる。

以上